

街づくりシンポジウム・2019 春

～御堂筋の将来を語る～

開催報告書

開催日時：2019年5月21日（火）18：30～20：30
開催場所：大丸心齋橋劇場（大丸心齋橋店・北館14階）
開催：NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会
参加人数：96名

プログラム

- 1 開会挨拶： NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会
理事長 成松 孝氏
- 2 講演
 - ① 『御堂筋の将来像～人中心のストリートへ～』
大阪市建設局企画部 道路空間再編担当課長 吉矢 康人氏
 - ② 『地域と共に成長を目指す 大丸心齋橋店の取り組みについて』
(株)大丸松坂屋百貨店 大丸大阪・心齋橋店長 兼 心齋橋新店計画室長
執行役員 西阪 義晴氏
- 3 御堂筋の将来像に向けて～当会の取り組み～
NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会 理事
(株)E-DESIGN 代表取締役 忽那 裕樹氏
- 4 パネルディスカッション
コーディネーター：NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会
街づくり部会長 藤川 敏行氏
パネリスト：吉矢 康人氏／西阪 義晴氏／忽那 裕樹氏
- 5 閉会挨拶： NPO法人 御堂筋・長堀21世紀の会
街づくり部会 鎌谷 裕史氏

討論内容の概略

開会挨拶

NPO 法人御堂筋・長堀 21 世紀の会 理事長 成松 孝氏

冒頭、成松理事長は、御堂筋を金の鉱脈に譬え、ここをパリのシャンゼリゼ通りを凌ぐ素晴らしいシンボルロードとして再編することで、大阪は世界が注目する都市として、必ず飛躍的な発展を遂げる。そんな金鉱を掘り当てるために、御堂筋に関わる多くの方々と課題を共有し問題点を話し合う機会にしたいと、シンポジウム開催の主旨を説明し、開会の挨拶とした。



シンポジウム開会挨拶をする成松理事長

講演① 『御堂筋の将来ビジョン～人中心のストリートへ～』

大阪市建設局 企画部 道路空間再編担当課長 吉矢 康人氏

御堂筋 80 周年を迎えるにあたり、国や大阪市、御堂筋に関わるまちづくり団体など公民連携による「御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会」が設立され、シンポジウムやワークショップを通じて議論を重ね、平成 31 年 3 月に大阪市は『御堂筋将来ビジョン』を策定。御堂筋 100 周年に向けて「人中心～フルモール化」をコンセプトに、御堂筋を 3 分割し、淀屋橋～中央大通りを「上質な賑わいと風格」、心齋橋付近を中心としたエリアは「落ち着いた賑わいの高質商業とビジネス街」、難波までを「商業賑わいエリア」とゾーンごとにテーマを分け、側道の歩道化から御堂筋再編を進めていくビジョンを打ち出した。



大阪市建設局吉矢課長より将来ビジョンのご説明

現在、難波交差点～道頓堀川間から緩速車線の歩道化に取り掛かっているが、ここがうまくいけば、その成功体験をもとに心齋橋、淀屋橋へと進め、万博開催の 2025 年までに側道を完全歩道化の予定。

具体的なデザイン等については、御堂筋・長堀 21 世紀の会など諸団体、地元協議会などと議論を重ね、歩行者を優先しながら、荷捌きや緊急車両、自転車などと安全に共存できる、世界に誇る御堂筋に向けて、公民連携で進めていく方針が述べられた。

講演② 『地域と共に成長を目指す 大丸心齋橋店の取り組みについて』

大丸大阪・心齋橋店長兼心齋橋新店計画室長 執行役員 西阪 義晴氏

1717 年に京都伏見で開業以来、大丸は創業 300 年となる。1726 年からは大阪心齋橋の現在地で商売を開始し、今年で 294 年目を迎える。今秋、開業を予定して本館の建替え工事を進めているが、この建て替えを「地域に貢献する」事業と考え、新本館には地域活性化に資するさまざまな機能を導入した。例えば国際競争力向上のため、インバウンド需要に対応したフロアの増設、人が集い・憩うスペース、屋上緑化、駐輪場の設置、低炭素化への取り組み、地下通路の拡幅やエレベーター、エスカレーターを設置してバリアフリー化し、メトロや心齋橋筋商店街へのアクセス向上など、新しい賑わい創出や心齋橋への集客力向上を図っている。



西阪執行役員より今秋開業の大丸心齋橋店の紹介

本館建物は歴史的建築として保存を望む声が高く、新本館は北館と道路上空で接続・一体化させ、御堂筋側の外壁を保存するとともに、新築される高層部はセットバックさせ、保存外壁と景観的調和を図っている。内装については、学識経験者のアドバイスを受け、残せるものはほぼそのまま復元、心齋橋側入口の孔雀のレリーフも復元される。こうして完成する新館のストアコンセプトは、『Delight the World 世界が憧れる心齋橋へ』。ここでしか出会えない驚き、発見、高揚を心齋橋から世界へ発信し、多くの人々を引きつけることで、心齋橋が、大阪が、さらには日本が元気になること願い、新しい大丸は、地域と共に成長していくことを目指している。

御堂筋の将来像～民間からの提案について～

NPO 法人 御堂筋・長堀 21 世紀の会 理事

(株)E-DESIGN 代表取締役 忽那 裕樹氏

大阪市が発表された「御堂筋将来ビジョン」に、公民連携として、我々民間のまちづくり 3 団体は「御堂筋パークストリート」を提案した。これは、御堂筋を歩いて行くと、大阪の古い町や水都・大阪の歴史、エリアごとに異なる特徴が、風景のように次々と立ち現れ、「歩いて楽しい御堂筋」を提案したもの。このアイデアは市の将来ビジョンに、ふんだんに取り入れていただいたが、道路を広場や交流の場にするのは、今、全国のみちづくりの指標になっている。こうした道路の利活用は、道路の概念を「通行から広場・交流の場」へと大きく変えただけでなく、エリマネ導入によって、「道路はお金を稼ぎながら街づくりをしていく資源になる」という画期的な考え方も生み出した。

御堂筋においてもそういった仕組みづくりを目指してゆくべきと考え、公民連携の仕組みづくりの一環として、「御堂筋サポーターズ倶楽部」を設立。現在、著名人を含めてメンバーは約 300 人。オール大阪の取り組みであり、さらに多くの方のメンバー登録と活動への協力をお願いしたい。



当会の取り組みを報告する忽那理事

パネルディスカッション

コーディネーター：藤川 敏行氏

パネリスト：吉矢 康人氏／西阪 義晴氏／忽那 裕樹氏

御堂筋の道路空間再編について、それぞれの立場でディスカッションを行ない、会場からも質疑を頂き意見交換を行なった。

■ 緩速車線が歩道化され、早く活用できるようになってほしいが、御堂筋に接している個性的なエリアの相乗効果を生かす有効活用が他にもあるのではないかと、そういう概念で臨まなければ御堂筋だけを考えては少し弱い。「世界の御堂筋」として成長するには、ソフトの掛け算が必要。ただ単に人が集まってくるだけではなく、そこにビジネスが生まれるような形、つまり地域と連携することによってそれぞれがビジネスでつながっていく、そういう装置を作っていくことが大事。そういう目標に向かって共に汗をかいていけるような大きなプログラムを作っていくことが、地域の活性化には必要だと思ふ。(西阪氏)

■ 側道の歩道化の時期について、具体的なスケジュールを知りたいという意見が多いが、まずは道頓堀川までを整備し検証が必要であり、その先のスケジュールの確約はなかなか



4名を中心に会場一体で御堂筋の将来への思いを語る



難しいのが実情。(吉矢氏)

■御堂筋は大阪のシンボルなので、行政にも民間にも、それぞれ希望や期待がある。道路管理という行政の立場で出来ること、民間で出来ること、また得意分野も違うのでしっかり話し合って、知恵を共有しながら進めていくことが大切だ。地域の皆さんと一緒に取り組むというやり方は、行政としては珍しいと思うので、しっかり連携し合って、いいものを作り上げていきたい。(吉矢氏)

■道路上で物を売る場合、問題はアルコール。今まではダメだったが、千日前の側道が閉鎖されたところで、広告 OK、アルコール OK、出しっぱなしの椅子 OK になった。ちゃんと管理運営できるなら許されることになるので、民間も自分たちで運営する仕組みを作って、責任がとれる体制を作っておくことが大事。(忽那)

会場からも次のような意見が述べられた。

■御堂筋とそれを囲む“口の字”型の川は大阪の財産。御堂筋は、道頓堀と中之島で川と結節している。これを上手くつないで周遊できるようにすべきだと思う。

■御堂筋を車が通れなくすると、東側や西側の道路が大渋滞するのではないか。事故や事件で緊急車両が入る事態も起こり得ると思われるので、思い切って2週間ほど御堂筋の全面車両禁止の社会実験をしてみてもどうか。

■側道を歩道化したことで、歩行者数など道路事情にどのような変化があったのか。

■難波・千日前間の側道閉鎖によって起こった問題点や課題を、ぜひ情報開示してほしい。側道閉鎖は、順次北に向かって進められていくので、側道閉鎖に伴う情報は、しっかり把握しておきたい。



会場からの質問に真摯に回答する吉矢課長



大阪や御堂筋の将来を熱く語る忽那理事

来場者アンケート結果(総回答数:53名、抜粋)

■シンポジウムの内容について

- ・世界に誇れるストリートになる現実を感じることができた。概要がわかり易かった。理解が深まった。
- ・公民連携での進め方の内容が理解できた、今後の方向性や海外の取り組み事例が分かった。
- ・大丸の新店舗計画の詳細を聞き、大丸の歴史と社会への役割が十分理解できた。ビジョンが素晴らしかった。
- ・登壇者の説明はそれぞれよく理解できたしディスカッションも本音が出て良かった。
- ・インバウンド、通行量などのデータの視点があとよかった。

■御堂筋の将来について興味あるテーマについて

- ・御堂筋と水都(水路)の共生や周遊プラン、「道と川」の接続
 - ・パークストリート化に伴う社会実験の効果や生の声を聴きたい(側道開放の整備スケジュールとにぎわいの施設のイメージ、安全安心確保、既存駐車場や荷捌きについて、など)
 - ・公民連携で街づくりを行うこと それぞれが互いに役割を果たす活動
 - ・自ら収入を得て自立するエリアマネジメント団体の成立性
 - ・上質な賑わいの創出、インバウンドをもっと集められる街づくり、マナーやナイトタイムエコノミーの検討。
- 回答者の大半が、御堂筋将来ビジョンについて理解を深めることができたという回答。また御堂筋のパークストリート化に向けて公民連携で進めていくことへの期待が多く寄せられ、参加者が一体となって御堂筋の将来を考えるシンポジウムとなった。

以上